

CD-JSQC-Std 32-001 「日常管理の指針」に対するコメント まとめと対応

・区分：指摘記号をご記入ください G：全体にわたる意見、T：技術的内容の修正、E：編集上の修正

No	行番号 (半角数字 のみ)	項番号 (半角)	区分	コメント (該当箇所がわかるように説明を加えてください)	変更提案 (具体的な修正案を記してください)	委員会による検討結果
1	190	4.1	T	TQMにおける日常管理の役割・位置づけ との表題に対して、以下。		△ No.2参照。
2	203	4.1	T	<p>日常管理に「革新」を含んでいる体裁に違和感あり。 「革新」は方針管理の中でパワーを掛け重点的に行うもの のでは？ 記載の意図は「日常管理の中にも他部門や外部の技術導入しての「革新」はあってしかるべき」と読み取りましたが、今の括りの中に今の表現を入れると前述の違和感は無くならない。</p> <p>また「革新」が必要な”課題”をキャッチすることは日常管理の重要な側面（異常多発⇨現状の管理基準や手段では是正困難＝内部&外部の環境変化）ですので、その点を指す話であれば良いかと・・</p>	<p>「革新的手段の導入」として記載しては？ 組織内の決め事やツールだけを正として扱わず、組織内外の「革新的手段」を学び取り導入を図ることの重要性を示唆する表現が良いのではと考えます。</p> <p>左記の「革新」が必要な課題を発見することも日常管理の役割・位置づけであるという形の内容を付議して頂ければと考えます。</p> <p>※市場やお客様などの変化で、今迄の管理方法・基準では現状維持も改善も立ちいかない状態は往々にして企業の中では在るが、発見出来なければ方針管理も不可。 「ゆでガエル」とならない為の発見は日常管理の中での異常多発や、逆に管理異常が発生していないにも関わらず異常状況が発生する等。気づきを促すべきこと必要と考えます。</p>	<p>△ 4.1では、広い視点に立って、TQMとは何か、TQMの中の中核となる活動は何かを述べた後、これらの活動を推進するための活動要素およびそれぞれの要素の役割・位置づけについて解説しています。その意味で、「革新」を日常活でカバーすべき活動として位置付けているわけではありません。</p> <p>この点の誤解がないよう、4.1の最初に、「TQMにおける日常管理の位置づけを理解するためには、広い視点に立って、TQMとは何か、TQMにおいて中核となる活動は何か、それらの活動を促進するためにどのようなことに組織的に取り組むのがよいのかを、それら一連の取組の中で日常管理の果たす役割は何か考える必要がある。」を追記しました。</p>
3	322	4.3	T	(表・1)「標準を守れない」に対する「克服のポイント」守らせるだけである	<p>作業標準をQCサークルに作らせ、必要があれば修正して承認する形がよい。これは、導入した設備の不備から職場が混乱した際、作業標準をQCサークルに作らせたところ、作業標準を守らないためのトラブルが皆無となり、管理者のそういったトラブル処理に対する時間を設備改善に使って職場が正常になった経験からのご提案ですのでご検討願います。</p>	<p>△ 「標準を守れない・守らない」に修正した上で、「担当者の参画を促す」を追記しました。また、具体的な内容は、5章に記されていますので、表の脚注として「注）克服のための具体的な取組は5章を参照。」を追記しました。さらに、5.4.5（意図的な不遵守の防止）の説明「標準を自分で作るだけの能力を身につけさせ、その作成・改訂に参加してもらうのがよい」を「改善提案や小集団改善活動（QCサークル活動など）を推進し、担当者が標準を自分で作るだけの能力を身につけ、その作成・改訂に参画できるようにするのがよい」に修正しました。</p>

4	59	序文	E	文章の意味がわかりづらい。	企画・設計するにも→企画・設計したとしても	○
5	66	序文	E	「組織経営」の意味がわかりづらい。	組織経営の根幹であり→組織を運営する上での根幹であり	○
6	170	3.11	E	注記のインデントが適切になされていない。	インデントを行う。	○
7	176	3.12	E	注記のインデントが適切になされていない。	インデントを行う。	○
8	367	4.4	E	文献番号が間違っている。	[4][5]→[12][13]	○
9	381	4.5	E	「(表・2)」の位置が適切でない。	文末に移動する。	○
10	420	4.5	E	「という」は不要。	削除する	○
11	433	4.5	E	「それ(KGI)を達成するための中間指標としての」という表現は、KGIが指標であることを考慮すると表現として適切ではない。	「組織またはその一つの部門や個人の成果を示す指標として KGI (Key Goal Indicator, 重要目標指標) を用いたり、KGIに影響を与えるプロセスの状況を示す指標として KPI (Key Performance Indicator, 重要業績評価指標) を活用したりすることがある」に修正する。	○
12	445	5.	E	「・・・とは・・・とする」は日本語としてわかりにくい。	「・・・とは・・・である」に修正する。	○
13	486	5.2	T	箇条タイトルは、②の意味になるのでしょうか？ それとも「業務の分析」といったら、機能を分析することが常識としてとらえればいいのでしょうか？ ① 5.2 業務の分析と展開 ↓ ② 5.2 業務の機能に関する分析と展開		× 厳密に言えば「業務機能の分析と展開」が正しいと思いますが、「業務の分析と展開」でも意味が通じるということだと思います。図・7を見ると、うしろに「一つの業務のプロセスの明確化」がありますので、「業務」と「プロセス」を使い分けていることがわかると思います。
14	495	5.2.1	E	「など」の後ろに不要な括弧()がある。	削除する。	○

15	518	5.2.3	E	「とどめている」となっているが、3次機能まで記されている。	「とどめるのがよい」とする。	○
16	518	5.2.3	T	<p>5.2.2では、表4は「3次機能に展開している」と記されております。</p> <p>5.2.3では「手順の展開になったと判断されるところで業務の分析・展開をやめ、」るのがよいとされており、例えば、表4の例では、3次機能は2次機能を実現するために行わなければならない作業の手順になっているので、2次機能までの展開にとどめるのがよいとなっています。</p> <p>★しかしながら、3次機能の部分には、昨今必要と認識されているデータポイントを多数確認できます。 この部分を、単なる作業手順とみるのか、データポイントの検出機能とみるかで、その後のサービスの設計や改善活動が異なってきます。 表4を事例とした場合には、右のような書きぶりもあるのではないかと、疑問に思いました。</p>	<p>★★修正案5.2.2 この例では、「入店したお客様から注文を受ける」という1次機能を、2次機能では2つに展開し、さらに3次機能に展開することでその内容がより具体化している。また3次機能展開部分には、業務設計や改善に必要とするデータポイントの候補を検出できるものが多数ある。</p> <p>★★修正案5.2.3 例えば、表4の例では、3次機能は2次機能を実現するために行わなければならない作業の手順になっているものもあれば、データポイントの検出にとって有用なものもある。単なる作業手順となっているものなのか、データポイントの検出を誘導するものなのか、を熟慮する必要があるため、この例においては3次機能までの展開は意味があると思われる。</p>	<p>× 「機能展開表」の目的はあくまでも、当該職場の「機能」の明確化ですので、データポイントの話とは区別しておくのがよいと考えます。データポイントの列挙・選定は、プロセスフローの明確化、各プロセスのI/O及び良品条件/判定条件の明確化の後に考えるのがよいと思います。</p>
17	525	5.3.1	T	「するとよい」では、推奨の表現として弱い。他の推奨のレベルと合っていない。	「するのがよい」に修正する。	○
18	537	5.3.2	E	誤植	「することよい」→「するのがよい」	○
19	550	5.3.2	T	「するとよい」では、推奨の表現として弱い。他の推奨のレベルと合っていない。	「するのがよい」に修正する。	○
20	594	5.4	E	「,」が不足している。	「・・・契約条項上、プロセスの規定が必要な場合」に修正する。	○
21	630	5.4.2	E	内容として状態を示す表現の方が適切である。	「しておく」とよい」に修正する。	○
22	717	5.4.8	T	「するとよい」では、推奨の表現として弱い。他の推奨のレベルと合っていない。	「するのがよい」に修正する。	○

23	719	5.4.8	T	「するとよい」では、推奨の表現として弱い。他の推奨のレベルと合っていない。	「するのがよい」に修正する。	○
24	777	5.5.4	E	「するとよい」と「するのがよい」の使い分けが、推奨の強さから見て逆になっている（補足的な推奨の方が「のがよい」となっている）。また、一つの文の中に「工夫」が二度使用されている。	「・・・するのがよい。・・・一目でわかるようにしておく」と修正する。	○
25	781	5.5.4	T	「なお、デジタル機器、AIなどを導入することにより、よりきめの細かいタイムリーな多種大量のデータの取得と集計、さらには異常の検出が、安価にできるようになってきた。異常の検出を効果的・効率的に行うことを目的に、これらの技術の導入にも積極的に取り組むとよい。」は、5.6.2（異常の共有）の第2段落と重複している。	削除する。	△ 5.5.4が「異常の見える化」について書いており、5.6.2が「異常の共有」について書いていることが明確となるよう、表現を修正しました。
26	834	5.6.1	T	管理図等についてよく知らない利用者のことを考えると、異常の判定方法についてももう少し詳しい説明があった方がよいのではないか。		× JIS等を参考文献等して引用することも考えられますが、異常の判定には必ず管理図を使用しなければならないような誤解を受ける可能性があるため、そのまましたいと思います。
27	854	5.6.2	E	カタナカ表記の修正	ウェアブル→ウェアラブル	○
28	856	5.6.1	E	「安価な」が強調されすぎているのではないか。	安価に→容易に	○
29	857	5.6.1	E	誤植	異常原因を特定→異常原因の特定	○
30	921	5.7.1	E	他と表現が合っていない。	次節5.7.2→次項5.7.2	○
31	945	5.7.2	E	図13の注記の末尾の「。」が抜けている。	追加する。	○
32	961	5.8	E	誤植	製造部門ではの→製造部門では	○
33	967	5.8.1	E	他と表現が合っていない。	5.1～5.7項→5.1～5.7節	○
34	1041	6.3	E	「節」が抜けている。	追加する。	○
35	1059	6.4	E	「節」が抜けている。	追加する。	○

36	1088	7.1	E	改行が抜けている。	改行する。	○
37	1227	8.1	E	推奨の文章になっていない。	「立案するのがよい」に修正する。合わせて1229行の文末を「するとよい」に修正する。	○
38	1269	8.3	T	内容に対して推奨のレベルが強すぎる	「するとよい」に修正する。	○
39	1271	8.3	T	内容に対して推奨のレベルが弱すぎる	「するのがよい」に修正する。	○
40	1282	8.3	E	「節」が抜けている。	追加する。	○
41	1288	8.4	E	5.4.2では(1)(2)等を用いている。	5.4.2と統一する。	○
42	1303	8.4	E	推奨の文章になっていない。	「設定するのがよい」に修正する。あわせて例示を示している次の文章の末尾を「するとよい」に修正する。	○
43	1313	8.4	E	「するとよい」と「するのがよい」の使い分けが、推奨の強さから見て逆になっている（補足的な推奨の方が「のがよい」となっている）。	「・・・するのがよい。・・・するとよい」に修正する。	○
44	1322	8.5	E	「とよい」では、推奨の表現として弱い。他の推奨のレベルと合っていない（補足的な推奨の方が「のがよい」となっている）。	「のがよい」に修正する。	○
45	1329	8.5	E	推奨の文章になっていない。	「判断するのがよい」に修正する。	○
46	1339	8.5	E	推奨の文章になっていない。	「活用するのがよい」に修正する。	○
47	表13	5.8	E	誤植（評価項目）	「日常管理のための人材育成と職場風土づくり(職場内でのコミュニケーションなど)ができているか」に修正。	○
48	表13	5.4	E	受け身の文章が混在している。	「行われており」→「行っており」 「得られている」→「得ている」	○
49	表13	5.5	E	受け身の文章が混在している。	「工夫がなされ」「工夫がされ」→「工夫をして」 「見直されて」→「見直して」 「見直しがはかられて」→「見直しをはかって」 など	○

50	表13	5.5	E	誤植	感覚→間隔	○
51	表13	5.5	E	表現がわかりにくい。	ほとんどの異常の検出に役立っている→異常の検出に大いに役立っている	○
52	表13	5.5	E	他と表現が統一できていない。	適宜更新している→適宜見直しをはかっている	○
53	表13	5.5	E	表現がわかりにくい。	表示などを行っている、表示などしている→表示などを行っている	○
54	表13	5.5	E	不要な「，」がある。	・・・人， など→・・・人など	○
55	表13	5.7	T	唐突に「エラープルーフ化」が言及されている。	削除する。	○
56	表13	5.7	E	受け身の文章が混在している。	「原因追究が行えて」→「原因追究を行って」など	○
57	表13	5.7	E	レベル4とレベル5の記述の順番が合っていない。	レベル5の記述をレベル4の記述の順番とそろえる	○